

土木学会四国支部「土木紀行」No.31(高知県)

「大渡ダム」

大渡ダムが位置する仁淀川流域は、日本でも有数の温暖多雨地帯であり、昔から台風シーズンには数多くの洪水に見舞われ、近隣や下流に大きな被害が発生していた。仁淀川は四国山脈にそびえる石鎚山(標高 1,932m)を水源とし、愛媛と高知を横切る四国有数の河川として有名である。また、流路延長は 124km、流域面積は 1560km²にも及び、下流域に広がる高知県の農耕地帯(園芸農業)を潤し、人々の豊かな暮らしには欠かせない河川となっている。

そんな仁淀川に位置する大渡ダムは、昭和 62 年 5 月に事業総額 780 億円を費やして完成し、国土交通省 四国地方整備局に維持管理されてきた。主な性能は貯水量 6,600 万 m³、高さ 96m、堤頂の長さ 325m、ダムの体積 約 100 万 m³であり、早明浦ダムなどに続き、貯水量と高さは四国第三位である。



写真-1 大渡ダム



写真-2 ダム入り口

写真-1 は下流側から見た大渡ダムである。写真-2 はダム入り口付近にあるモニュメントである。四国を象った石に穴があいているが、よく見てみると、穴があいている場所は大渡ダムがある場所だと分かる。

大渡ダムは水力発電、洪水調節、渇水調節、不特定灌漑用水などの役割を担っている。特に水力発電では、大渡発電所は最大出力 33,000kW であり、35,000 世帯の電気量をまかなえる程である。また大渡ダムから流れ出る水は仁淀川の下流より取水され、針木浄水場を経て高知市に水道水として供給されている。また、ダムの貯水池に流れ込んでくる流木は、細かく砕いてチップ状にして敷地内の公園樹木の肥料に利用したり、炭焼きによって流木を木炭に変えたりなどして再利用が図られている。



写真－3 ラジアルゲート



写真－4 大渡ダム

写真－3はラジアルゲートと呼ばれるものである。大渡ダムにはこれが合計4機設置されている。取材日に偶然にもラジアルゲートの点検をしており、作業員の方のご好意で写真を撮らせていただいた。このラジアルゲートが開いているところは、なかなか見られるものではないそうである。写真－4は大渡ダムを上流側から眺めた景色である。撮影日の前々日に台風の影響で大雨が降ったため、ダムの貯水位は増え、水が濁っている。ラジアルゲートが1機だけ開いているもわかる。

高知県の特に仁淀川付近に住む多くの人々は、これらの大渡ダムから多くの恩恵を受けている。だが、ダムの建造には自分達が生まれ育ってきた自然や文化・歴史を大事とし、守ろうとする近隣の住民の方々からの反発が付き物であり、この大渡ダムを建造する際にも近隣住民の方々とは多くの問題が発生し、交渉が多々行なわれていたようである。

大渡ダムの建造の際に交渉によって決定された補償例を述べる。大渡ダムの水没戸数は吾川村 53 戸、仁淀村 37 戸の併せて 90 戸。用地取得面積は柳谷村、吾川村、仁淀村の水没、道路、その他を合計で 173.46ha。国道・村道・林道を含めて 21.895ha の付替道路、小学校・診療所・公民館・プール・農協などを公共補償とした。また、四国電力の面河第三発電所、岩屋発電所、仁淀川発電所、鉱業権 2 件、さらに下流の仁淀川漁業協同組合と上流の面河川漁業協同組合の漁業権 2 件を特殊補償とした。

最後に、大渡ダムを作られる側が著した書に、吉岡重忠著・発行で「湖底に消えた仁淀溪谷」(昭和 56 年)があり、吾川村・仁淀村の故郷を離れざるを得ない水没者の心情を記した書がある。仁淀川を身近に感じる機会が多々ある我々は、多くの犠牲と悲しみ、そして苦労の上に今の生活が成り立っている事を知ってほしいと思う。

参考文献

- ・大渡ダム Oodo Dam Official web site <http://www.skr.mlit.go.jp/oodo>
- ・文献に見る保障の精神 [31] <http://wwsoc.nii.ac.jp/jpf/Dambinran/TPage/TPHosyou31k.html>